

第2回 吉野町子ども・子育て会議 会議要旨

■日時： 平成26年2月26日（水）PM7：00～8：45

■場所： 町中央公民館2階 第3・4研修室

■出席者：

	氏名	所属・役職名等
1	池田 宗士郎	吉野町連合 PTA 代表（役員）
2	石田 裕子	奈良県佐保短期大学地域こども学科 准教授
3	戌亥 一男	吉野町民生児童委員協議会代表（会長）
4	大石 さゆり	公募委員
5	大北 司	わかば幼稚園保護者（育友会長）
6	小泉 梓	吉野町議会議員（文教厚生委員長）
7	下中 一平	吉野幼稚園保護者（育友会長）
8	中東 郁雄	小中学校長代表（吉野北小学校長）
9	中村 久己子	吉野保育所長、吉野幼稚園長
10	林 豊子	公募委員
11	部谷 よし子	わかば幼稚園長
12	南 雅樹	吉野保育所保護者（保護者会長）
13	森本 郁夫	吉野町区長連合会代表（副会長）
12	和田 公子	奈良佐保短期大学地域こども学科 教授

■配付資料

- ・吉野町子ども・子育て会議 次第
- ・資料1 吉野町子ども・子育て会議委員名簿
- ・資料2 吉野町子ども・子育て会議ワーキンググループ開催要項（案）
- ・資料3 『子ども・子育て支援新制度』について
- ・資料4 「吉野町次世代育成支援後期行動計画」と「市町村子ども・子育て支援事業計画」の関連
- ・子ども・子育て支援事業計画策定に関するニーズ調査集計結果

1. 開会

2. 会長挨拶

皆さま、こんばんは。先週、先々週の土日は大変な大雪で、正直なところ、雪の中の2月の会議は無理かなと思っていましたが、今日ぐらいから本当に日差しが暖くなり、もう春がそこまで来ているなと思いつつ、ここまで車で走らせていただいたら、山間にはまだたくさんの雪が残っていて、さすが吉野の方だなと感心しつつ、ちょっとわくわくしながらここまでまいりました。

先日、ニーズ調査の集計結果を送っていただき、私も見せていただきました。この中から何を感じ取って、何を事業の中に入れつつ、何を分析してこの会議で事業を進めていく計画を皆さまと一緒に立てなければいけないのか、たくさんの課題はあるものの、なかなか動けないものもあるかなというふうには思っています。その辺のことも含めて、ニーズ調査を土台にこれからの事業なり、それについての皆さんのご意見をいただきつつ、何とか進めてまいりたいと思います。

今日は、ニーズ調査のことも含めて、皆さんの忌憚のないご意見をちょうだいできればと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

3. 町長挨拶

皆さん、こんばんは。お疲れのところお集まりいただき、まことにありがとうございます。第1回の会議に出席できなかったことを、まずはお詫びいたします。日本一の子育て支援と健康長寿のまちを目指そうということを標語としてやっていますので、子育て支援には力を入れているつもりですが、とりあえずは足りないところ、できていないところをこの何年間でやらせていただくつもりではございます。まだできないところが多く、行政側の都合のよいやり方をやっているという気もいたします。今回は、こういう形で、現状のニーズを把握しながら計画をつくるという大事な会議だと思っていますので、よろしくお願いいたします。

私自身、奈良県の子ども・子育て支援推進会議という、同じように計画を立てる会議のメンバーに選ばれています。今日は実はその3回目の会議で、今までは実態調査アンケートについて話を進めてきましたが、これからは各市町村で実施しているニーズ調査の結果を踏まえて、どんなことをしなければならないかということを来年度4回ほどの予定で進めています。

県の方の議論と市町村はかなり違います。子ども・子育て支援と少子化対策ということはいコールではないよと。まず結婚してもらわなければならないとか、そういうところからも話をされていました。そのようにいくと今度は、女性しか子どもは産めませんので、仕事をしていくなかで、出産して、仕事に復帰できる。あるいは違うかたちで仕事をするという、そういうことを応援しなければならないだろうという話とか、女性そのもののワ

ーク・ライフ・バランスや、どのように男女平等を進めていくかという非常に大きな話をされました。そういう意味でいうと、私たちの時代であったら、結婚したら家庭に入る。ちょっと次の世代は、結婚してしばらく仕事をして辞める。あるいはそのあとパートで違う仕事をするというふうにだんだん変わっていくわけですが、最近ニュースを見ていると、いきなり若い人が起業したり、女性が起業するということで、あと10年、20年したら、全然変わってくるだろうなという感覚を持っています。そういうことも見すえた計画も必要なのではないかというふうなことが言われたりしていますが、それはまた大きな話ではありますが、この中では現状のニーズに合わせた計画をやっていこうと思っています。

県の方でも色々な項目をたくさん挙げておられて、知事自身もこれだけ全部はできるわけではないと。どれか目玉はあるのではないかと。これをまず片付けて次はこれという、そういうメリハリの付いたやり方も必要があると思います。皆さん方からもたくさん意見が出ると思います。それは全部できるとは思えませんが、優先順位を付けて考えていただけたらありがたいと思います。

女性の人生の過ごし方という観点でいくと、吉野町が日本で一番女性が仕事しやすいところを目指すという考えも面白いかなと思っています。よりよい計画につながりますことを願ひまして、挨拶の言葉と代えさせていただきます。

4. 新委員紹介

5. 委嘱状交付

6. 議事

1) ニーズ調査集計結果報告

(事務局説明)

【質疑】

(会長)

感想や分析等、できるだけ多くの皆さまのお声をお聞かせいただきたいと思います。いかがでしょうか。

(副会長)

私はアンケートの回収率が気になります。内容の把握と、今後を見すえた回答をいただくために、そして吉野町に対する希望や夢について、できるだけ多くの方に回答いただける調査にしてもらいたいと思います。

(会長)

65 パーセント弱の回収率を上げるためにはどうすればいいか、また、他のことについてでも結構ですが、ご意見ございますか。

(委員)

アンケート調査の問 10、現在働いていない保護者の就労についての希望について、7 歳になったら働きたいという結果が出ていますが、自分の手で子育てをしようとしていることが分かってうれしく感じました。また、吉野病院で病児保育ができたらいいと思います。

(会長)

アンケート調査結果から、母親は就園と就学といった子どもの育ちの節目で就労を考えていることが分かりました。アンケートの回収率について、質問項目が多すぎて回答が大変なため、回収率が下がっているのではないかということも思いました。アンケート調査のやり方に苦言を呈していただいても結構です。

(委員)

私の地域は特に少子化が進み、お祭りぐらいしか子どもがわいわいと集まることはありません。私は、教育というのは、生きた教育でなければならないと思っています。また、質の高い幼児期の保育や学校教育をしてもらいたい。吉野町の地域の実情に応じた子育ての充実をもっと具体的に図っていただきたいと思います。

(会長)

質の高い教育という核心に触れたご意見と、吉野町の地域の実情に応じてすべきことを考えなければならないというご意見をいただきました。

(委員)

学童に通う子どもが 30 パーセントとかなり多く、また人数が増えてきて大変だという話を聞いています。私自身、3 人の子どもを学童保育に預けて、大変助かったという経験をしていますので、そのあたりが気になります。

(会長)

30 パーセントが多いのか少ないのか、充実しているのとらえるのか、まだ足りないのとらえるのか、子育て支援を行政の目玉にしたいという町の考え方と併せて考えていかなければならないと思います。

(委員)

他市町村と比較できる資料があればより実態が分かります。母親の就労について、子どもが7歳になったらという回答が多いのは、やはり7歳までは自分の手で育てたいということだと思いますが、私も同感です。その後、子どもの年齢が7歳、9歳、13歳と上がっているのは、まだまだ行政に任せられないということだと思います。その課題をカバーしていけば、調査結果も変わってくるのではないかと思います。

(会長)

就労したい年齢と実際に就労できた年齢にギャップがあるということだと思います。その他に就労したい仕事があるのかどうか。希望の仕事がないので、就労を先に延ばそうということ。もう一つは、分析には表れないけれども、学童保育に預けるということに対する不安もあるのかもしれないというご意見でした。他にはいかがでしょうか。

(委員)

子育て支援制度には、幼稚園の預かり保育や小学校の学童保育も含まれているのでしょうか。

(会長)

はい、含まれます。

(委員)

アンケート調査結果には、経済的理由で利用ができない、施設の利用の仕方や条件が分からないという回答がありますが、周知不足と思われます。アンケートの項目も、みんなに分かりやすいような内容にする必要があると思います。これから何回かアンケートを採られるのですか。

(事務局)

27年度から始まる新制度に向けて、子育て支援事業計画を策定しなければなりませんが、その計画を策定するにあたって、皆様のご意見をうかがうということでアンケート調査を実施しました。この計画は5年ごとに見直しを続けていく計画です。また次の5年の計画を立てる時には、あらためてニーズ調査を行い、結果を検討する必要があります。また、見直しをかける時に、ピンポイントにしばった形でアンケート調査をすることも可能だとは思いますが。

(委員)

27年度にスタートしたあと、5年ごとに見直しをするということですね。

(事務局)

はい、そうです。

(委員)

27年度から始まるのであれば、もっと中身を詰めなければなりませんし、吉野町中に周知する必要もあると思います。27年度からは、所得に応じた保育料になるということですが、吉野町が何らかの負担をするということですか。

(事務局)

幼稚園の保育料に関しては、今のように一律ではなく、保育所と同じように所得や保育の利用時間に応じた保育料になります。

(委員)

所得と預け入れ時間に応じてということですね。個人によってかなり差が出てくる場合もあるということですね。基本的なベースはだいたい決まっていますか。

(事務局)

いいえ。まだ国から公定価格が示されていませんが、間もなく出ると思います。

(委員)

園を選ぶ権利もありますから、12月までには周知してもらいたいと思います。

(事務局)

入園、入所の受付をする11月までには受付ができるように条例等を整えておく必要がありますので、そのころまでには確定したいと思います。

(会長)

5月、6月までに公定価格が決まるという情報は入っています。それによって行政の負担が決まると思います。非常に緊迫したスケジュールの中で動かなければならない状況と、緊迫した中でも長いスパンで考えていかなければならないというバランスを考えた上での委員さんのご意見をいただければと思っています。

(委員)

時代の流れや子育ての環境により、ニーズも多様化してきている。子育て支援は政策域も広く、終わりが無い。子ども・子育て日本一を目指すまちにするには、今、地元で頑張

って子育てされている満足度や充実度を上げていかないことには、町外にも発信できませんし、広まってもいけないと思います。今、子育て中の方が何を求めておられるのかを把握することが大事で、それからピンポイントに絞って政策をしていなければならぬと思います。過去のデータからどのように変わってきたか教えてください。

(会長)

過去のデータがすぐに分からなければ、次回、報告してください。

(事務局)

吉野町では次世代育成支援後期行動計画を元に子育てに関する施策を進めています。この後期計画をつくるにあたり、平成 22 年度にもこのようなニーズ調査を行っています。その時と同じ設問もありますので、次回までに分析し、お知らせいたします。

(会長)

では、よろしくお願いいたします。

(委員)

この会議でアンケート調査をする事が決まったわけではなく、教育委員会の方で調査が行われたという状態です。教育委員会は何をもってこのアンケート用紙をつくり、どのように利用していくつもりなのか聞きたいところです。このアンケート調査結果が出た時点で、教育委員会の方ではこうしていったらどうかという考えがあるのでしょうか。

(会長)

質問項目がたくさんありますので、すべてを吸い上げたいという思いでアンケートを作成したと思いますが、目的についてお答えいただけたらと思います。

(事務局)

子ども・子育て支援事業計画は、国から各市町村で必ずつくるようにいわれている計画です。質問には、必須項目と任意項目がありますが、その項目にあった調査内容が国からある程度示されています。国から示された設問に応じてニーズ調査をすることで、よりはっきりとした支援計画ができると思います。国から示されている内容に加えて、町独自の項目も付け加えました。追加内容としては、子育てに対するイメージや子育ての不安や悩み、その悩みを解消するためのサポート、また町として、身近にどのようなサポートが必要だと感じているのかという項目を加えています。次世代育成後期計画の内容を引き継いで、今回も事業計画を立てていきたいと思っています。基本理念や基本方針については、あらためてご提案させていただけたらと思っています。

(会長)

町にぴったりの支援計画を立てるということが、非常に求められていることだと思います。これからその辺の具体策の策定に向けて、よろしくお願いいたします。

(委員)

ニーズ調査結果の 53 ページ、問 37、子どもの人数について、本当に欲しい人数は 3 人という結果が出ています。もう一押しすれば 3 人に近づけるのではないかと考えています。

(会長)

私も同様に思います。妊娠に至るまでの医療的な取り組みもされていると聞いていますが、その周知徹底がなされていない。その部分が課題とも思います。

(委員)

今度、幼稚園に入園するお子さんをお持ちのお母さんと話した際、吉野町が実施している子育て支援を利用したいから就職したいと言っていました。そう思ってハローワークに行っただけでも仕事なかったそうです。吉野町で仕事がないから、仕方なしに家にいるという状況もあるように思います。そういった状況のため、就労せず、一生懸命子育てをされている方々が楽しく、充実した子育てをできるような支援計画を作成してほしいと思います。

(会長)

子どもが 3 人欲しくてもあきらめる理由として、経済的な理由があります。仕事をしたくてもできないというところで、子育て支援としては十分な支援ができる状態にあるにもかかわらず、そこに向いていかないのには、仕事の有無など、産業振興ともかかわってくるのかなとも思っています。

(委員)

問 14 長期休暇中の定期的な教育・保育事業の利用希望で、休み期間中も利用したいという方が 6 割を超えています。やはり幼稚園であっても利用したいという声が高い状況がありますので、考えていかなければならないと思います。問 12-1 幼稚園・保育所等を吉野町で利用したいかという設問には、9 割以上の方が「はい」という答えでした。現場の人間としてはとてもうれしい数字です。このお母さん方の思いを受けて、長期休業中にもお子さんを預かるべきではないかと、あらためて吉野幼稚園、吉野保育所のあり方を再検討すべきではないかと感じています。母親が安心して働いたり、子育てができたり、リフレッシュできるような環境を整えることが一番大事なことはないかと、この結果を見て、

新たに感じています。

(会長)

長期休業中の保育は、毎日ではなくてもいいとは思いますが、預かり保育の利用も可能だと思いますが、周知不足のため、分かりにくいという声もありました。その辺りも含めて、もう一度、掘り起こしをしていくことが大事だと思いました。

(委員)

48 ページ、子育てに楽しいと感じるが不安や負担も同じぐらい感じるという意見が 52.1 パーセント、喜びや楽しみを感じているが 43.8 パーセントとなっています。吉野北小学校は非常に校区が広いのですが、そこでも少子化のため近所に友だちがいないという状況があります。学童に入ることによって、友だち付き合いなどができることを期待して入所を希望する側面もあるのではないかと思います。

(会長)

私も、整備された安全な遊び場がないという話を聞いたことがあります。実態に応じたというところが、ご意見として出ていました。

(委員)

奈良県全体の実態調査では、子育てと両立できる職場があれば勤めたいという意見が多くありました。それが吉野町の結果にも反映されていると思います。また、山間部で生活することのメリットを吉野町の売りにして、魅力あるまちづくりを進めてはどうですか。アンケート調査結果からは、子育て中の方と周りの方が、お互いに気を使い合っていることが見えているように思います。うまくその辺りのつながりができたらいいと思います。

(会長)

さまざまな切り口でご意見、ご感想をいただきました。アンケート調査結果を分析し、点で読み取るのではなく、できるだけ面で読み取ったものを町民にあらためてフィードバックできるようにしてほしいと思います。

2) ワーキンググループについて

(事務局説明)

【質疑】

(会長)

ワーキンググループについて、3 人の方に担当をお願いしたいと思っています。ワーキ

ンググループの方向や実施について質問はございますか。

(委員)

ワーキンググループというのは、ヒアリングをするための組織ですか。

(事務局)

はい、そうです。ニーズ調査の対象とならない方のご意見をうかがうためのグループです。

(会長)

聞き取りは難しいと思いますが、3人の担当の方にはご苦勞おかけします。特に異議がなければ、実施ということで進めさせていただいてもよろしいですか。

(一同)

異議なし。

(委員)

特別な支援が必要な方をサポートする必要を感じています。そうしないと、計画が形式的なものになってしまうということを懸念しています。

(会長)

表に出せない理由もあるかと思います。

(委員)

民生委員には守秘義務があるため、外に出せない情報があります。

(会長)

話したい人たちだけではなく、話しにくい人たちのご意見も聞きたいと思います。吉野町の不登校の小中学生は、全国レベルよりも高い割合だと聞いています。不登校の子どもへの支援とともに、親への支援を手厚くしていかなければならないと感じています。子育てがしんどいと思っている方への支援をどの程度、私たちにできるかということともつながっていくと思います。地域の皆さんの意見も吸い上げながら、行動計画の中に反映していきたいと思います。

3) 吉野町子ども・子育て支援事業計画について

(事務局説明)

【質疑】

(会長)

何かご質問はございますか。

(委員)

幼稚園型こども園は、保育所の機能も備えるということですが、吉野町は幼保一元化で、保育所から幼稚園までの一連になるということですが、27年度から、わかば幼稚園はどのような体制になりますか。今は幼稚園で預かり保育をしています、保育所の機能を備えるということであれば、1歳児、2歳児もわかば幼稚園に入園できるということですか。

(委員)

27年度以降、わかば幼稚園と吉野幼稚園はどのような体制になるのでしょうか。

(事務局)

27年度以降は、吉野幼稚園は幼保連携型認定こども園になります。わかば幼稚園は幼稚園型認定こども園になります。

(委員)

わかば幼稚園は保育所の機能を備えるのであれば、0歳から入園が可能ということですか。

(事務局)

そうではありません。幼稚園型認定こども園は、3歳から5歳までのお子さんをお預かりする施設です。保育所の機能があるということは、保育を必要とする子どもたちも受け入れるということで、就労型支援の預かり保育をしているところが、保育所機能になるかなと思っています。いま現在の形から大きく変わることはありません。

(委員)

サービスはそのまま、利用者が払う料金が変わるということですか。

(事務局)

保育料の負担は変わってきます。

(委員)

保育料が上がる可能性もあるわけですね。

(事務局)

今のところ、はっきりとは申し上げられません。

(会長)

母親が仕事をしていたり、介護をしているため家で子育てができないお子さんたちの年齢を3歳から5歳と限っているのが幼稚園型認定こども園となります。保育料に関するとは、これから定まってくると思います。

(委員)

ある程度ベースは決まっていますか。

(事務局)

まだ決まっています。5月ぐらいに国の方針が下りてくると思うので、その時期に分かるかと思います。

(委員)

預ける側の親としたら、所得によって負担が増えるような場合は、きちんと説明をしないと反発が来るのではないかと思います。

(委員)

同様のサービスで負担が増えると、親としては損した気分になります。保育料が上がっても質が上がるといった、私たちが納得するぐらいの制度になるのか、ならないのかが知りたいと思います。

(委員)

保育料が上がっても、例えば、夜10時まで預かってくれるといったようにサービスが向上するならいいと思います。

吉野町の子育て環境について、現在は、整備された公園まで車で連れていっていますし、土日に学校の校庭で自由に遊ぶことはできなくなっています。

(会長)

私たちが次にすべきことも含めて、ご意見を色々出させていただきました。特に就学前の子どもたちの教育・保育の質を上げることが望まれます。ただ、公定価格が定まっていな

い状況の中で、事務局としては、保育料に関してなかなかはっきりと出し切れていないところだと思います。

遊び場についても、公園まで車で行くという状況の中、歩いて遊びに行ける場所があればいいと思います。安心して遊べるということが、一番求められることだと思います。どうすればお金をかけずに地域を生かしてできるかということを、あらためて検討する必要があります。

支援事業計画については、さまざまな課題もありますし、今、挙げていただいた問題もあります。今後の会議の中で進めていかなければならないこととっていますが、今日、皆さんからいただいたご意見を参考に、また事務局の方であらためて検討していただくという形で進めていったらどうかと思います。何かこの件についてご意見等ございますか。

(委員)

学校の開放について、合併して閉校になった小学校を子どものための場所にすることはできませんか。子どもを持つ親御さんに話を聞くと働きたいけれども、子どもがいて働けないという声を聞きます。工夫しだいで、働きたい方が働くことができるのではないかと思います。例えば、地域の小学校に面倒を見てくれる人がいる。その方の雇用は地域がするのか、親がするのか、町が負担するのは別として、そういう施設に管理してくれる人を一人置くと。子どもたちが徒歩で行くことのできる、放課後を過ごす環境があれば、働くこともできますし、母親も働くことができますし、住民も預けることができます。仕事が発生しない地区でも、同じようなことがいえるのではないかと思います。ぜひ検討していただきたいと思います。

(会長)

子育て支援は、就学前のお子さんだけでなく、小学生までということになっています。私たちも認識を新たにして、学童期の子どもたちの安全な居場所も含めて考えていくことによって、仕事もニーズに応えられるのではないかと思います。行動を起こさないことには、何も始まりません。皆さんのご意見をもとに、何かからでも始められたらと思います。事務局の方で、次回に向けて素案を出していただくということで、本日の会議を終了したいと思います。

4) その他

(事務局説明)

(事務局)

最後に副会長よりご挨拶をいただきたいと思います。

副会長挨拶

さまざまな議論をしていただきました。ありがとうございます。大変貴重な意見で、さまざまな意見を出していただき、内容が非常に濃かったと感じています。まだまだご意見のある方もおられると思います。皆さんの周りにはネットワークを持っておられる方がおられると思いますので、その方の意見もどうか集約していただき、それを取りまとめていただき、より大きな一歩を踏み出せるようにどうか日々努力をしていただきたいと思います。本日はありがとうございました。

(事務局)

本日の会議はこれにて終了いたします。ありがとうございました。

以 上